

## 令和6年7月29日（月） 令和6年度第1回射水市内川未来戦略会議 議事要旨

### <開催概要>

- 1 開催日時 令和6年7月29日（金） 16：00～17：30
- 2 開催場所 射水市新湊消防署3階講堂、オンライン
- 3 出席者（五十音順）

青井 茂	株式会社アトム代表取締役
明石 あおい	株式会社ワールドリー・デザイン代表取締役
五十嵐 友輔	越中祭青年会副会長
加治 幸大	株式会社imizutto代表取締役
木村 広	株式会社新湊観光船取締役専務
副座長 高木 新平	株式会社ニューピース代表取締役CEO
中川 めぐみ	株式会社ウオー代表取締役
永谷 亜矢子	立教大学経営学部客員教授
野口 和宏	富山湾しろえび倶楽部発起人
福田 和則	株式会社エンジョイワークス代表取締役
座長 牧田 和樹	一般社団法人射水市観光協会会長

### <議事次第>

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 趣旨説明
- 4 議事
  - (1) 座長挨拶
  - (2) 委員自己紹介
  - (3) ディスカッション
- 5 閉会

#### 1 開会

#### 2 市長挨拶

- ・この度は委員の皆様にご委員就任をお願いしたところ、快く引き受けていただき、改めてお礼を申し上げます。
- ・内川未来戦略会議を開催した背景には、近年、内川が観光地として、また移住先として非常に注目いただいている状況があり、このような中で、ぜひこの内川のブランド価値を高めながら「稼げる観光」、「関係人口の拡大」等を通じた地域経済の好循環等を生み出すことを目指すためである。
- ・内川エリアはここ10年で30件を超える新しい店舗に出店いただいている一方で、人口減少や空き家の増加に歯止めがかからないといった課題がある。
- ・委員の皆様にはぜひ様々な角度から内川が持つ価値や目指すべき未来について闊達な議論をしていただきたいと思います。
- ・議論を踏まえ、年度中には内川のブランド戦略をとりまとめていただくとともに、内川の明確なブランドメッセージを作成し、射水市として市内外にしっかり発信していければ

と考えている。

・錚々たる方々に就任いただき、これからの会議で何が起こるのかを本当に楽しみにしている。ぜひ我々の想像を超える議論が交わされることを期待したい。

### 3 趣旨説明

(事務局より資料1、4に基づき説明)

### 4 議事

#### (1) 座長挨拶

- ・本日はお忙しい中集まっておいただき感謝する。
- ・今回座長を務めることになったが、事務局からの趣旨説明でもあったように、この会議では「内川のブランド価値の飛躍的な向上」を目指す。この「飛躍的」という言葉に着目したい。
- ・現代は我々が経験したことのないフェーズに入っている。その最たる例が人口減少。昔は人口が増加する一方だったが、現在は減少の一途を辿っている。今、前例は一切通用しない世界になってきている。
- ・故に、本会議の目的にある「飛躍的」という言葉には、前例を覆す・前例に頼らないという意味が込められていると考えている。すなわち、本会議では内川のブランドの本質や、内川が本来あるべき姿は何なのか、ということに立ち返って議論していく必要があるのではないかと考える。
- ・委員のみなさんには「東京者」と「地元者」の熱いバトルを期待している。闊達な議論を戦わせるという経験によって、みなさんの中で内川に対する想いが醸成できれば、自ずと戦略はまとまっていくと考えている。大事なのは会議の場でバトルを繰り広げること。ぜひ積極的に参加してもらいたい。
- ・座長として、委員のみなさんがやりたいようにできる場を作りたい。

#### (2) 委員自己紹介

##### 【高木委員】

- ・現在は東京でニューピースというブランディングの会社を経営している。
- ・出身は新湊。18年間この土地で育った。現在、富山県成長戦略会議に委員として参加させていただいている。県の会議では人口減少に際してどのような戦略を取るべきかを議論した結果、居住人口ではなく関係人口を大事にしていくという方向性にまとまった。現在は「幸せ人口1000万」というビジョンを掲げ、とにかく広めることに注力している。
- ・ただし、県は人口創出の現場を持っているわけではない。そこで、地元である射水市が関係人口を拡大していくひとつのロールモデルになると良いと考えている。
- ・本会議の立ち上げを提言させていただいた。市長をはじめ様々な市の方とお話させていただくうちに、モデル地域化を推進していくためには、外部の人も呼び込んで内川のポテンシャルを活かすあり方を考えていく機会を設けることが良いのではないかと考えている。
- ・自分は内川を本当にポテンシャルのある地域だと思っている。それは、漁業や観光、祭り、移住者等、様々なプレイヤーがこの土地に関わっているからだ。
- ・しかし、自分は内川のポテンシャルをまだ活かしきれていないとも考えている。気になっているのは、まとまりのなさ。内川に集まった多様な人びとが同じ未来像を見ることができれば、内川のポテンシャルは更に発揮できると考えている。内川のポテンシャルを発揮するきっかけをこの会議で作っていききたい。
- ・牧田座長は「バトルを」とおっしゃっていたが、必要なのは敵味方の議論ではなく、目的に向かった付度のない議論。富山県成長戦略会議の委員も、実は半数が富山にはゆかりがあるが現在県外にいる人だ。結局、観光には外の視線が必要だし、関係人口を広めるためにはいかに外に仲間の輪を広げていくかが大事。今回、委員になっている人もすでに何

かしらの形で内川・射水と接点があるプロフェッショナルばかり。ここでの議論をきっかけに、より多くの人で内川の10年後の景色を共有できるようにしていきたい。

#### 【明石委員】

- ・富山市で育ったが、2010年まで東京に住んでいた。富山は田舎だから嫌だと思って出たが、戻ってきたら富山にはたくさんおもしろいところがあると気づいた。県内の各地を回る中で内川に出会い、興味を持った。
- ・内川に通ううちに夫がカフェを作り、自分も事務所を移転した。とにかく内川のファンの一員として、今はここで暮らしている。
- ・東京に住んでいたときは、地域づくりのコンサルタントとして、1ヶ月の半分は全国各地の地方に出張していた。いろんな地方を知っているつもりだったが、まさか自分が育った富山市の隣にこんなに水辺と生活が近い町があったという驚きがあった。今も内川に感動した気持ちは変わらない。
- ・この会場にも配布した「内川さんぽ」という内川を紹介する冊子は、10年以上前に地元のNPOの方の勧めで作ったもの。4回ほど刷り直しているが、冊子で紹介するお店も良い意味で様変わりしてきた一方で、自分の好きな内川のポイントが少しずつ失われつつあるようにも感じている。
- ・自分のできることは「内川は本当にすごい」と伝えることぐらいだと思っているが、何か地域のためにできればと思っている。

#### 【五十嵐委員】

- ・生まれも育ちも内川の人間。25年間この土地で暮らしてきた。
- ・様々な選択肢がある中で、自分が地元に残った理由は、地域のお祭りが大好きだったから。小さい頃からお祭りに触れて親しんで、いろんなことを地域の方から教えてもらい、学んできた。
- ・お祭りが繋ぐ人との縁や、地域のコミュニティはとても大きなエネルギーだと思っている。実際にお祭りをきっかけに県外からも人が訪れ、地元から出ていった若者も帰ってくる。その点で新湊はお祭りに特化した地域だと考えている。
- ・祭りとお祭りをかけ合わせながら、地域のブランディングに繋げる活動にできればと思っている。

#### 【野口委員】

- ・新湊漁協に所属する現役の漁業者。この土地で数代にわたり漁師をしている家系。
- ・生まれも育ちも新湊で、現在も内川沿いに住んでいる。昔は実家の横の内川に父親の漁船が入ってくるのを桟橋から待っていたことが自身の原風景として印象に残っており、内川には非常に思い入れを持っている。
- ・大学進学を機に地元を出て、一旦戻ってきたが、10年ほど地元から離れていた時期もあった。しかし再び内川に戻ってきて、正直に言えば濃密過ぎるところもあるが、育ててもらった町でもある。少しずつ地元で恩返しをしていきたいと思っている。

#### 【中川委員】

- ・魚や釣りに関する仕事に携わっている。会社員時代に仕事の市場調査の一環で釣りをする機会があり、その魅力に惹き込まれた。さらに釣りは地域の人や食、文化など様々な魅力に触れる「入口」だと気付いたことで、地域活性に活かしたいと6年前に起業した。以来、全国各地の海を周り、観光コンテンツやPRに携わっている。
- ・釣りや漁師さん、さらに水産の素晴らしさを知らない人がたくさんいることを悔しいと思っている。また、魅力を発信して好きになってもらうだけでなく、抱えている課題も知ってもらい、一緒に解決に向けて話し合える社会を作りたいと考えている。
- ・現在は新しい観光としての水産や、漁師さんとコラボレーションした社員研修などの企

画も仕掛けています。

・富山県出身で、富山には何もないと感じて大学進学を機に県外に出たが、年齢を重ねるなかで富山にしかない文化・歴史などに魅力を感じるように。おもしろいプレイヤーがたくさんいることも知って、ちょうど富山で腰を据えて事業を作りたいと考えていた折に委員の話をいただいた。

・内川についてはまだ知らないことだらけだが、釣りや水産を通した内川の魅力も課題も知っていきたい。自分なりに内川がどうなることが地域内外の方にとって良いのかを考え議論し、具体化するために貢献できたらうれしい。

#### 【加治委員】

・生まれ育ちは新湊。実家は内川のすぐ側にある。自分の原風景は、内川を含む新湊の風景にある。

・町づくりは地元の間人でやろうという姿勢で活動してきた。約10年前に射水市世界一挑戦塾という団体を立ち上げてギネスに挑戦するなどしていた。

・最近自身の年齢や社会情勢を鑑み、もっと自分の思うようにやりたいことをやろうと考えるようになった。現在は内川の空き家を改装してカフェにし、自分の好きなカルチャーを楽しむ場を作っている。憧れる大人の存在が地元の若者に良い影響を与え、町も活気づくという考えのもと、好きなことを楽しむ大人の姿を内川に根付かせていきたい。

・まずは自分の想いを積極的に伝えることで会議に貢献したい。

#### 【福田委員】

・湘南で不動産会社を経営している。会社を始めたきっかけは、鎌倉に引っ越した時、地域で楽しそうな大人にたくさん出会ったこと。人生を自分らしく生きている人たちがいる町の姿を目の当たりにして、自分も地域に参加したくなり、コミュニティに参加するための手段として不動産紹介を始めた。どんどん仲間を増やすうちに、ファンを作ったり、地元の人と事業を展開するなど行い、その中で富山の幸せ人口の一員にもなった。

・富山に関わったことで、いろんなご縁をいただいて楽しい。ちょうどそのご縁で内川でも新しい事業に挑戦したい方の支援もしており、良い機会だと思っている。

#### 【永谷委員】

・リクルートの営業・企画編集や東京ガールズコレクションの立ち上げ、吉本興業のプロデューサーなど、自身のユニークな経験を活かし、地方創生の観光分野のお手伝いをしている。

・富山でも去年の年末から県のエグゼクティブアドバイザーとして、県で観光庁の事業を採択している。

・富山にはたくさん素晴らしい祭りがあるが、まだマネタイズができていない状態。祭りの存続が怪しいところも少なくない。富山新湊花火大会もお手伝いさせてもらい、観光まちづくり課の職員の働きもあって、全席を完売することができた。

・5月に内川で持続可能な地域づくりについて講演させていただいた。射水は非常にポテンシャルの高い地域。海王丸パークなどの50万人超えの規模の集客を見込めるスポットが3ヶ所もあるが、現在はほとんどお金が落ちていない状態。例えば隣の氷見市と比べても観光消費額に差がある。

・また、内川は実際に訪れると素晴らしい場所だということがわかるが、ネット上ではまだ魅力を伝えきれていないと考えている。内川に観光で訪れた人は橋の写真を撮っている人が多いが、そこから消費に繋がるのか、マネタイズが気になっている。これからは内側もラグジュアリー層を受け入れていくことがとても重要なのではないかと。

・会議でもマネタイズや観光の観点からお手伝いできればと思っている。

#### 【青井委員】

・祖父が射水出身というご縁で委員を務めさせていただいた。自分は東京出身で、20代の時に富山を訪れたときは「何もない」という印象だった。しかし、仕事で地方創生に携わり、不動産の価値を考えるようになってから地方の魅力に取りつかれ、富山に関わるようになってからはすっかりファンになってしまった。現在は富山でも複数の会社を経営している。

・主に東京で不動産投資をしているが、ヨーロッパやアジアでも事業投資をしており、海外に足を運ぶ機会も多い。この半年間でも10数カ国をめぐり、400人ほどの外国人に会ったが、必ずと行って良いほど日本に興味を持っている。

・しかし、まだまだ日本の魅力を伝えきれていないとも考えている。発信しなければ、お客様も来てくれない。内川も他の県や市にはない魅力がたくさんあると思っているので、ちゃんとひとつずつあぶり出していくことが必要だと考えている。

#### 【木村委員】

・海王丸パークに入る観光船の事業者として、また、ますの寿司や土産物販売の事業者をしている。また、10年ほど前から旅行会社を通じて、内川を全国に紹介する仕事もしている。

・大学進学を機に地元から10年ほど離れ、戻ってきた時に、昔友人と遊んだ内川の風景は、実は全国でもオンリーワンの魅力的な地域だと感じた。しかし、事業の評判は良いが、マネタイズができていないこと、内川魅力を地元の人間としてしっかり発信しきれていないことに、もどかしさと責任を痛感している。

・たとえ交通機関の不足等、具体の課題解決をしても、魅力を伝えられなければ現状を突破できないと考えている。この会議で全国から様々な知見が集まることで、内川魅力を伝えきれないボトルネックを突破できる好機だと楽しみにしている。

#### 【夏野市長】

・射水で就職し、仕事をしながら地域を回るうちに、内川魅力にたくさん気付いた。地元住民の方と話していると、今の内川の姿はいろんな人のアイデアや想いでできていると感じている。

・一方で、これまで内川は外に発信して紹介するような土地ではなかった。しかし地元住民からすれば身近で気づかなかった魅力を、市外や県外からくる人びとが発見し、映画やドラマのロケ地で使われるようになったことで、その魅力に気づき始めたと思う。

・では、我々は内川をどう活かしていけば良いのかという段階に来ているのが今の現状だと考えている。

### (3) ディスカッション

#### 【牧田座長】

・議論のはじめに、「なぜ内川を変えなければいけないのか」という問題提起について、会議立ち上げの提言を行った高木委員から説明いただきたい。

#### 【高木委員】

・内川はエリアとして価値があるのに、今は個々人が別々に活動している印象。これから10年後、20年後、内川がどういうエリアになっていくのか、どういう景色を残し、どの部分を変えていこうとしているのか、キープレイヤーでも共通認識が持っていないと思う。

・例えば、瀬戸内と聞くと思い浮かぶ景色がある。穏やかな海に浮かぶ島々、そこにしまなみ街道が通り、各スポットにアートがある。瀬戸内は都道府県や市町村の境界線ではなく、エリアの名前だが、そこにブランドができています。事実、今、世界でも国際的な観光地「SETOUCHI」として認知されている。

・同じ海辺の町でも、湘南や鎌倉には思い浮かぶイメージができています。行ってみたい、こういう暮らしをしたいという憧れが醸成されていて、町の人の間に理想像が共有されて

いる印象。それが生活から観光までの一貫性を生んでいる。

- ・内川はまだそこがバラバラで、だから移住者と地元の人も、業界を超えた連携など含めてまだまだ手を組めていないのではないか。エリア自体にポテンシャルがあるのだから、景色を共有して手を組めたらすごい観光地であり、魅力的な暮らしの場になると思う。

#### 【牧田座長】

- ・実際に内川で活動している個々人の認識はバラバラなのか。内川の住民でもある明石さんはどう思うか。

#### 【明石委員】

- ・地元の人自立心が強く、自分たちでなんとかやるという意識は強いと感じている。この点あまり連携していない印象を与えているような気がしている。
- ・ヒエラルキーのようなものも、もしかしたらあるのかもしれない。
- ・市外の間人が内川で新しいことに挑戦しようとしても、地元のみなさんは地域のことを大切に思うあまり、ネガティブに受け止められることも少なくない。ビジョンによってポジティブな印象を与えることができればと期待している。

#### 【加治委員】

- ・自分は空き家を改装して、カフェ兼ギャラリーを運営している。実は音楽を流したり、人を集めて賑やかにすることに対して、町内のことを考えると気にはしている。しかし、あまり気にしすぎないほうが良いとも考えている。
- ・町の魅力を考えた時に、個性的なものがいっぱいあれば良いと思うが、形は別でも共通のものがあれば良いと思う。
- ・答えはまだ持っていないが、それぞれが思うことを活動して認め合うことができれば良いと思う。
- ・また、市外に出た時に思ったが、内川の静けさ、人のいないところはとても良いと思った。富山市もずっと賑やかで、同じ県でも内川のように静かなところはない。

#### 【高木委員】

- ・バラバラか否かよりも、価値を共有できるようにしたい。例えば瀬戸内も地域で「瀬戸内の価値とはなにか」を共有しているような印象を受けている。
- ・表現の仕方は多様で良いと思うが、この土地で感じられる価値や、提供できる価値の共通認識があると良いと考えている。
- ・鎌倉も個性豊かな地域プレイヤーがいる印象だが、どのように一体感を醸成しているのか。

#### 【福田委員】

- ・そのエリアにいる人のネットワークで暗黙の共通認識があると考えている。鎌倉には海というわかりやすいコンテンツもあるが、それだけでなく潜在的な理解に基づいていろんなかたちで表現し、発信している。

#### 【高木委員】

- ・内川は景色に頼り過ぎなのではないか。実際に建物に入るとバラバラな印象がある。隣の氷見市のほうが地域の価値を共有していると思うことがある。
- ・もちろん、今後内川でどのように価値を共有できるのかは難しい問いだと思う。

#### 【福田委員】

- ・湘南にもとても美しい景色がたくさんあるが、実は雑誌『BRUTUS』で最も売れた号のひとつに「鎌倉にひとり、ともだちを作ろう。」特集がある。その地域でどんな人が住ん

でいるのかがもう少し可視化されると、潜在的な共通項が見えてくるのではないかと。

**【高木委員】**

・確かに湘南にはライフスタイルやファッションが確立されている印象がある。内川でどんな人がいるのかと質問されても、すぐには答えられないかもしれない。内川に住んでいる立場として、野口委員はどう思うか。

**【野口委員】**

・今でも内川では他所から来た人は「旅の人」と呼び、排他的な風土も残っている。両者が歩み寄ることができれば良いと思った。

**【牧田座長】**

・若い世代の視点から五十嵐委員はどう考えているか。

**【五十嵐委員】**

・若者から見ても、内川がディープな町だと思う。若い世代はSNSなどいろんな媒体で外の世界を見て、外のほうを選んでしまいがち。

・ヒエラルキーの話が出たが、祭りを運営する中で、外部の人間を巻き込むことに対して世代間の意見のギャップがある。ただし、地元の人間だけでは祭りを運営しきれないのが現状。文化継承のためには、外から人を入れないと運営できない。同じ想いを持った人たちと、祭りをきっかけに新しい繋がりを作っていきたい。

・自分は若者なりの新しいやり方を模索している。非日常でテンションの高い祭りの日は、地域外の人びととのマッチングという点で良い機会になるのではないかと考えており、祭りの日に外から人を呼ぶ取り組みを行っている。

**【牧田座長】**

・実際に祭りを通して関係人口は増えているのか。

**【五十嵐委員】**

・仲間は増えてきている。祭りに参加できるだけでなく、食事処を運営するなど観光的なアプローチをする方もいたり、町のありかたに溶け込みながら祭りを盛り上げる仲間が増えてきている。

**【中川委員】**

・内川でも同じ方向を向くことができたらとても素敵だと思った。話題に出た鎌倉だが、確かに地元住民と会話したり、町を歩いていても「鎌倉っぼさ」を持っている印象。

・地元の人たちがプライドを持ち、前向きな気持ちで使われているのがとても良い。そのような「○○っぼさ」が醸成され、いつの間にかブランドになっていくのではないかと。

・地域外の人たちが勝手に作るものではなく、住民が中心になって違和感のないような蓄積しているもの。規則・ルールのようなものではなく、ゆるやかだけど外から見るとつい憧れてお金を出したくなるものを、委員としても推進や伴走して作っていきたい。

**【牧田座長】**

・内川の価値を言語化・可視化することで価値を見出し、共有することが大事だということがベースの議論だと思う。

・永谷さんは今までの議論を踏まえ、どのように考えているか。

**【永谷委員】**

この前「カモメとウミネコ」という民家ホテルに宿泊した。午前中はここでずっとのんびりしていたと思うくらい本当に居心地がよかった。

- ・いろいろな地域を訪れているが、内川には独特の空気感がある。ただ、どうしていきたかを本気で定義したほうが良いと思う。
- ・例えば今、射水市の観光サイトでは宿泊施設を検索できるが、ビジネスホテル以下の施設が並んでいる。宿泊施設自体が少ないということもあるが、内川の価値が表現できていないのではないかな。
- ・また、価値づけはたくさんあるが、観光なのか移住なのか、どちらの方向を目指すかという問いもある。
- ・ただし、うまくいく地域は人の繋がりがあるところ。富山は地域の方が頑張っている印象。ただし、他の地域はIターンで地元を盛り上げている人が多い。例えば富士吉田市はIターンの人が中心人物を担っている。また、十勝一帯の地域を繋いで差配している方は地域外の出身者。町の価値に対して共感してくれる人を、地域内外問わず受け入れる体制が大事だと思う。
- ・単発的なプロモーションのやりようはいくらでもあり、短期的な効果はある。しかし、今の内川に大量の人が来ても迷惑ではないか。どういう人に来てもらいたいのか。どれくらい来てほしいのか。フェーズごとに考えたほうが良いと思う。
- ・個人としては、内川に人がたくさん来ても価値がなくなると思う。漁船が水面に移っていて、まばらに生活者がいる風景の傍らで、観光客が写真をいっぱい撮っている風景を思い浮かべると、何とも言えない気持ちになる。また、写真ではお金を落としてもらえないので、観光の対価として何が適切かを真剣に設計する必要があると思う。

#### 【青井委員】

- ・そもそも知名度の問題もある。「射水市」と聞いてどこにあるかを知っている人は、国内でも少ないと思う。海外ならなおさら低いと思われる。
- ・自分は人の少ないところが射水市の魅力だと考えている。人がいないことを保つていくためには、高付加価値を付けることを検討すべき。例えば、50~100万くらいの内川の観光モデルコースを作って、外国から人を呼んで忌憚ない意見をもらいブラッシュアップさせていくのはどうか。

#### 【牧田座長】

- ・時間も迫ってきたので、ぜひ最後に各委員の思う内川の魅力とは何か教えていただきたい。

#### 【青井委員】

- ・海と川が身近にあること。なかなかないと思う。

#### 【永谷委員】

- ・人のいない静けさと空気。こんな場所は本当はない。
- ・個人的には「日本のベニス」と言って良いのかも疑問。観光っぽいイメージがある。むしろ、ずっと守られてきた川と海の側の暮らし、その空気感が魅力だと思う。

#### 【福田委員】

- ・湘南という言葉が多く出た回だったが、実は同じ湘南でも藤沢・茅ヶ崎は騒がしい、鎌倉・逗子・葉山は閑静といった魅力の違いがあり、地域住民も暗黙裡に理解している。
- ・実は自分も「カモメとウミネコ」に宿泊させてもらい、静けさや朝に漁船のある営みに魅力を感じた。また、小道にも魅力を感じた。葉山にも住民発意の小道ツアーもあり、イベントの精度が高い。
- ・漁師と水と共に生活する暮らしが魅力だと思う。

#### 【加治委員】

・祭りごとに集まるパワーが実は隠れた内川の魅力ではないか。地元高校が甲子園に出場したときの熱気など、メリハリに魅力が秘めているように感じた。

#### 【中川委員】

- ・個人的には静けさも魅力のひとつだと思っている。
- ・野口委員の原体験のエピソードも伺って、船を家の前で待つ「エモさ」を感じた。そんな暮らしを少しでも体験できたら素敵だと思う。
- ・例えば京都の伊根町で、もんどり漁を体験して感動した。家の前に大きなカゴ網が垂れ下がっており、残飯を入れておくと魚やタコが入る。地元の人からすれば日常のことが、外の人からすれば非日常なこともある。
- ・内川の人たちが何をしたいのかが大前提だが、今の暮らしを守りながら、内川の日常を観光として押し出していくのも素晴らしいかもしれない。

#### 【野口委員】

- ・自分は内川は生活の場としか考えられないし、これからもそうあってほしい。
- ・ただ、五十嵐委員が話されているように、自分も祭りに参加して生まれる横の繋がりにはポテンシャルを感じている。
- ・身近すぎて気づけない価値を今回を機に気づかせてもらって、発信するお手伝いをできればと思う。
- ・生活者としては、川に船のある景色は美しいと思う一方で、船が大型化し川に係留できなくなってきた。漁業者の立場として、守りたいけど、守れないような複雑な立場でもあることは知っておいてもらいたい。

#### 【五十嵐委員】

- ・自分も住んでいる人間なので、内川沿いはあくまで生活道路。しかし、高校生の際に映画「人生の約束」を観て、自分のあたりまえの風景がきれいなんだなと思った。
- ・ただ、自分は内川に暮らす人がおもしろいと思っている。いろいろな人がいるが、祭りや地域の名前が外に出た時に一枚岩になる。多様でも地域に熱い想いを持った人がたくさんいることが、地域共通の認識なのではないか。
- ・内川の熱い想いを持った地域プレイヤーに会える観光もあっても良いのではないかと。または、地域のおじさん図鑑のようなものを作ってツアーを組むなど、内川と共に暮らす人々を魅力のひとつとして売り出すのも良いのではないかと。

#### 【明石委員】

- ・内川で最初に感じた魅力は水辺に近いこと、生活感があること、空と海の開放感。
- ・ただ、ここに住むきっかけは、写真を撮っている時に出会った地元のスーパのお母さん。とてもパワフルな女性だったが、初めて出会った時に大伴家持が射水を詠んだ和歌を語っていた。大伴家持の時代からこの風景はあるというポテンシャルに感動して、移住を真剣に考えた。
- ・実は歴史的な背景や敬意を持ちながら、初めて会った人に分け隔てなく話してくれる地域であることも伝えていきたい。

#### 【高木委員】

- ・都会育ちの妻が、冬にブリッジバーで飲んだ後、雪の夜道を歩いた時に、突然感動で泣き出した。そこで「初めて田舎が良いと思った」と言われた。ファッションの業界ではクワイエットラグジュアリーという、誰かに見せびらかしたり、自慢することをしない贅沢がブームになっていると言われていたが、内川に魅力を感じるのも、時代の流れに合っていると思った。
- ・なぜ地元の人が内川の静けさの価値を認識しづらいのか考えた時に、昼は漁師が寝てい

るからなのではないかと思った。生活者と観光者の暮らしが正反対だから気付けないのではないか。

・地元の人を感じる魅力、外の人を感じる魅力は実は裏表かもしれない。うまく繋げることができればおもしろいのではないか。これからの議論を楽しみに感じている。

**【牧田委員】**

・様々な価値の魅力を聞くことができてよかった。予想通り収束しなかったことに安堵している。

・大変有意義な時間を過ごすことができた。次回以降もこのようなかたちで議論をかわせればと思う。

5 閉会

**【夏野市長】**

・牧田座長をはじめ、自由闊達な意見をいただき、改めて感謝申し上げる。

・今日の意見で印象に残ったことは、様々な立場から見た内川の魅力があるということ。特に印象に残ったのは、漁師の皆さんと水とともに生活する暮らしが魅力なのではないかということ。また、祭りのときのような爆発的なエネルギー。

・地元住民でしか体験できないことに、少しでも参加してもらえれば、さらに魅力は伝わるのではないか。内川の魅力は景観だけではないと思った。

・限られた時間の中時間を割いていただきありがたく思う。

・年度中にはひとつの戦略にまとめるので、引き続きご指導いただきたい。